

無痛分娩について

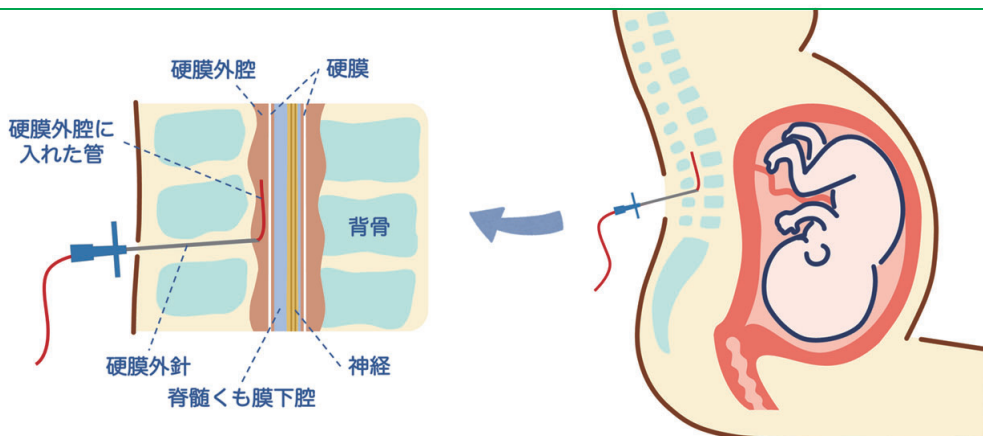
出産に伴う痛みをできるだけ軽減したいというニーズの高まりを背景に、「無痛分娩」への関心が高まっています。日本ではこれまで自然分娩が主流でしたが、価値観の多様化や出産年齢の上昇などを受け、無痛分娩を選択する方が徐々に増えています。

大阪母子医療センター（以下、当センター）では、妊婦さんと赤ちゃんの安全を最優先に、丁寧な無痛分娩を提供しています。当センターでは、主に「硬膜外麻酔^{こうまくがいまいすい}」を主体とした無痛分娩を行っています。これは背中から脊髄^{せきずい}という神経の束の付近まで細い管を入れて麻酔薬を投与し、陣痛の痛みを和らげる方法で、意識を保ったまま出産に臨めるのが特徴です。痛みを完全にゼロにするのではなく、分娩の進行を妨げないように調整しながら、分娩中のお母さんの負担をできるだけ軽減していきます。また、産科医や助産師たちと麻酔科医が連携し、分娩の進行に応じて適切に麻酔管理を行う体制が整っている点も大きな特徴です。無痛分娩に関わる処置は麻酔科医が担当し、安全性に十分配慮されています。さらに自然な陣痛発来に対して24時間365日体制での対応が可能であり、安心して出産に臨める環境が整っています。

無痛分娩に対しては「赤ちゃんへの影響はないのか」「思うようにいきめるのか」といった不安の声もありますが、当センターでは、無痛分娩教室や麻酔科外来において、事前に十分な説明と相談の機会が設けられており、一人ひとりの状況や希望に応じた選択を支援しています。

出産は人生の大きな節目です。痛みへの不安を軽減し、より安心して出産に臨むための選択肢として、当センターでの無痛分娩を検討してみたいはいかがでしょうか。

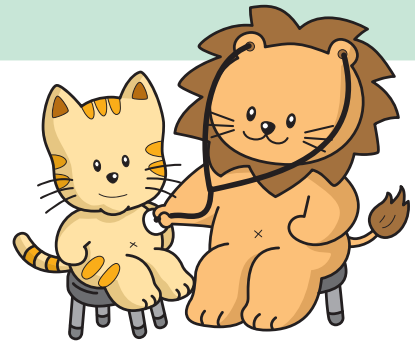
▼ 硬膜外麻酔



(麻酔科 竹下 淳)

大阪母子医療センターの得意な診療

ダウン症候群



ダウン症候群（トリソミー 21）は、最もよくみられる染色体異常症です。21 番染色体が通常より 1 本多くなることで、21 番染色体上の遺伝子が過剰に作用し症状が出現します。主な症状は、身体的特徴、低身長、発達の遅れ、心疾患などです。原因の多く（約 95%）は「標準型トリソミー」と呼ばれるもので、高齢妊娠と関係します。そのほか、「^{てんざ}転座型」や「モザイク型」もあります。ダウン症候群の診断は採血してリンパ球の染色体を分析することで行われます。検査前後には遺伝カウンセリングを実施します。

乳児期には、筋肉の緊張が弱い、哺乳力が弱い、などの様子がみられます。運動発達はゆっくりで、ひとり歩きは 2 歳半ごろになることが多いですが、個人差があります。言葉の発達もゆっくりですが、これも個人差が大きいです。理解する力は比較的良好です。知的発達の程度には個人差がありますが、入学後は支援教育が必要になります。それぞれが豊かな個性の持ち主であり、一定の支援を受けながら、学校生活に適応しています。

身体的合併症として、約半数に先天性心疾患がみられます。状態によっては早期に手術が必要になります。また、^{しょうかかんせんてんいじょう}消化管先天異常、^{こうじょうせんきのうていかしやう}甲状腺機能低下症、白血病、^{てんかん}てんかんなどを合併することがあります。視聴覚の状態にも注意が必要です。整形外科的合併症として^{かんじくつい}環軸椎不安定性があり、^{けいつい}頸椎に負担のかかる運動は避けます。思春期以降は肥満になりやすいので、食事療法や運動療法を行います。ダウン症候群の平均寿命は 60 歳以上に伸びています。一方で、生活習慣病（肥満・高血圧・糖尿病など）や甲状腺機能異常、^{こうようさんけっしやう}高尿酸血症など内科疾患などの継続的な管理が必要です。また、思春期以降に退行現象や認知症が現れる場合があります。

医師や各種療法士、保健師、教育関係者、福祉関係者などの連携による支援が大切です。早期療育（リハビリや発達支援）は、体や姿勢の発達を助けるだけでなく、ご家族の支えにもなります。それぞれに合った教育や支援を受けることで、社会参加や就労の機会を広げることができます。

（遺伝診療科 岡本 伸彦）



産科の初診予約システム

／ 紹介状のない方が対象 ＼

患者さんの予約利便性向上を目的として、「ホスピタルマネージャー」という予約システムを導入しています。

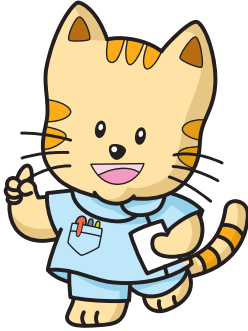
これは、患者さんにスマホから予約希望日の申し込みをしていただき、当センターとのやり取りを経て、予約を確定するシステムです。まずは、産科で紹介状をお持ちでない初診の患者さんについて運用を開始しています。電話、Fax 予約に加えて、患者さんの利便性の向上を目指します。

Web 予約は
こちらから▼



(((院内 Wi-Fi 使用できます)))

2026年4月1日より、患者さん用の公衆無線 Wi-Fi の運用を開始しています。
無線 Wi-Fi に対応した端末（スマートフォン・タブレット・パソコン等）をお持ちの方は、ご利用可能です。接続エリアは外来待合・パクパク広場・病棟・家族控え室・救急初療室・ファミリーハウス 1F で、接続に必要な SSID 及びパスワードは院内に掲示しています。



ご利用の際は、当センターホームページに掲載の利用規約に同意いただいたうえで、利用場所やイヤホンを使用する等音量に配慮し、マナーを守っていただきますようご協力をお願いいたします。また小児病棟は、入院中の子どもたちが規則正しい生活を送れるように、夜間（22時～翌6時）は接続できないようになっています。

Free Wi-fi 接続サービス▼

日々のインターネットの利用が、院内での時間を豊かにする一助となることを願っています。今後も当センターでは、患者さん及びご家族の皆さまが快適に過ごせる病院環境づくりに取り組んでいきます。



(情報企画室)

遺伝カウンセラーの仕事

遺伝カウンセラーは、遺伝に関する専門知識とカウンセリング技術を持ち、患者や家族に寄り添い遺伝医療を支援する専門職です。日本で 2005 年に誕生し、現在 400 人程度います。当センターには非常勤を含め 5 名おります。主に遺伝診療科、産科にいますが、院内対診に応じる形で殆どの診療科とも連携しています。



🍀 遺伝診療科

子どもの症状や病気の原因を調べるために、染色体や遺伝子の検査を提案・説明しています。検査は、保険適応のものから保険外（自費）、研究など幅広く実施しています。

診断が確定された場合、専門的な情報提供、心理社会的支援を行っています。次子や次の世代への影響についても説明します。たまに成人の方からのご依頼もあります。ご希望がある場合には、同疾患をもつご家族面談の調整やサポートも実施しています。

🍀 産科

「出生前カウンセリング外来」で「赤ちゃんに病気はないかしら？」等の不安を抱え出生前検査を検討されるご夫婦とお会いします。検査前後の遺伝カウンセリングは必ずご夫婦（カップル）で受けていただき、思いを傾聴し正確な情報提供を行う等、お二人がより良い選択をされるよう意思決定の過程をサポートしています。

(リハ・育療支援部門)

5月31日は「世界禁煙デー」

世界保健機関（WHO）は、昭和45年にたばこ対策に関する初めての世界保健総会決議を行い、平成元年には5月31日を「世界禁煙デー」と決めました。

厚生労働省が定めた「令和8年度禁煙週間」5月31日～6月6日に合わせて、たばこの啓発ティッシュを総合窓口や外来受付で配布しました。また、デジタルサイネージのポスターも新しくしております。

たばこは妊婦や子どもだけでなく、全ての方に様々な健康問題が起きます。当センターでは、妊産婦だけでなくそのパートナー、通院している子どもの両親や祖父母などの家族を対象とした禁煙外来を行っています。WEB予約も可能ですので、ホームページをご確認ください。

禁煙外来 ▼

病院周辺の禁煙にもご協力ください。
この機会に、みんなで禁煙について考えましょう。



敷地内
禁煙



No smoking
in the hospital area



きれいな空気
ありがとう

子どもは 喘息・乳幼児突然死症候群 など
妊婦さんは 早産・低出生体重児 など

たばこは大きな影響があります

大阪母子医療センター 禁煙ワーキンググループ

(禁煙ワーキンググループ)

ボランティア 移動としょかん



当センターのボランティア活動のひとつに「移動としょかん」という活動があります。図書室で選書した約300冊の本をブックトラック2台にのせて、病棟の子どもたちに本を届ける活動です。

センター内には親と子の図書室がありますが、入院中の患者ご家族の「図書室に行けない子どもに、自分で本を選ばせてあげたい」という声をきっかけに約15年前から始めたボランティア活動です。

毎週金曜日の午前10時半から各階の小児病棟と集中治療科を順に回っています。となりのトトロの「さんぽ」のオルゴールの音を流しながら病棟に入ります。移動としょかんが来たことがわかるとプレイルーム前に止めたブックトラックのところまで、車いすで駆けてくるお子さんもおられます。ご家族や看護師と一緒に点滴スタンドを押しながらくるお子さんもおられます。どれにしようかと会話がはずみ楽しそうに本を選ぶ様子は、本が好きな子どもが自分で選ぶことがどれだけうれしいかが伝わってきます。これからも、子どもやご家族に豊かな時間をお届けしていきたいと思っています。

現在115人のボランティアが患者さんやご家族のためにと、日々、さまざまな活動を行っています。どうぞお気軽にお声がけください。

(ボランティアコーディネーター 河盛 久美子)

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪母子医療センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840
電話 0725-56-1220
FAX 0725-56-5682
<https://www.wch.opho.jp/>

基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します

基本方針

- ・ 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します
- ・ 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います
- ・ 地域と連携して母子保健を充実させます
- ・ 母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます